

私の人生と日本放射線化学会との出会い

大阪公立大学 大学院工学研究科 物質化学生命系専攻

堀邊 英夫



新型コロナが発生しておおよそ2年となりました。その間、誰しものが閉塞感漂う中で日々精一杯暮らしていることと思います。幸い私の研究室は一昨年(2021)の4月と5月に閉鎖しただけで、それ以降は感染対策を行いつつも通常通り開催しています。当時、研究室学生と、なんとかオンラインでつながり、画面越しですが顔を見られた時のうれしさは格別でした。これまでの人類の歴史を見ても、疫病はワクチンがない時代でも必ず数年間で収束しており、もう少しの辛抱だと思っています。

本来、巻頭言ですので日本放射線化学会の将来展望を記載すべきところですが、私の実力不足で、これまでの私の人生と日本放射線化学会との出会いに代えさせていただきますことご容赦下さい。あえて具体名を記すことで人との繋がりが広がればと思っています。私は奈良県立畝傍高校を卒業後、京都にある近畿予備校に通い、京都大学工学部合成化学科に入学・卒業しました。18年間三菱電機(株)に勤務した後、高知高専、金沢工大、大阪市大に勤務しました。企業とアカデミアでの勤務期間がほぼ同じになり、自分はどちらの間人かなと思うときがあります。この1月で60歳になり還暦を迎えいつのまにこのような年になったのかと驚いています。これまでに色々な人と出会い、数多くの助けを受けここまでこれたと心より感謝しています。論語に、「不惑(40歳)、知命(50歳)、耳順(60歳)、従心(70歳)」とありますが、自分自身、未だ人生に迷いまくり、天命も果たせず、頑固者です。企業の退職が人生最大の転機であり家族も戸惑ったことと思いますが、「研究を通して学生を鍛え産業界に羽ばたかせること」を使命とし日夜取り組んでいます。この4月に大阪市大は大阪府大と統合し大阪公立大学になり、入

学定員数では全国の国公立大学で3番目になります。入学してくる学生に恥じない大学にすることを最後の私の5年間の務めにしたいと思っています。

自分の話が長くなりましたが、日本放射線化学会との出会いについて語りたと思います。私は「化学増幅ポジ型三分系電子線レジストの設計と開発」で博士(工学)を阪大で取得しました。その時の主査は城田靖彦先生、副査が田川精一先生でした。お2人ともジェントルマンで、家内と娘が博士授与式に参加した時に、城田先生が奥様のことをワイフと呼んでおられ、「さすが阪大の先生は違うね。」と話したことが懐かしいです。田川先生とはその後高知高専に異動した時に阪大の招聘助教授にして頂き、より研究しやすい環境を与えて頂きました。その後、金沢工大に異動後は招聘教授になり、今も古澤孝弘先生が引き継いでくれています。古澤先生とは、たまに電話で話したり、飲んだり、阪大の集中講義をさせて頂いたりしています。化学増幅型EUVレジストの評価もわずかですが一緒にやらせて頂いています。

吉田陽一先生、神戸正雄先生とも深い関係にあります。吉田先生からは、「第61回放射線化学討論会」を大阪市大で是非お願いしたいとの依頼があり私が委員長を務めさせて頂きました。その時は、当時同じ研究室でした佐藤絵理子先生と阪大の神戸先生にご尽力頂きました。さらに思い出深いのは、「第62回放射線化学討論会」が福井大学(敦賀キャンパス)で泉佳伸先生が委員長で行われましたが、その準備で3人で訪問し、温泉に浸かったり飲みながら将来を語ったことです。また、神戸先生にはそのご縁で半年間私の研究室の特任助教に来て頂き、研究室の学生を熱く厳しく指導してもらいました。その他にも鷺尾方一先生(早大)、前川康成先生(量研)、関修平先生(京大)とも交流があります。いずれにしろ私の人生はこのような方々との出会いの中で形成されてきたことは間違いなく、未熟な私を支えて頂いたと思っています。さすがにこの年になりましたのでこの御恩を下の世代に返すとともに、微力ですが今後も日本放射線化学会に貢献できれば幸いです。

My life and my encounter with Japanese Society of Radiation Chemistry

Hideo HORIBE (Division of Science and Engineering for Materials, Chemistry and Biology, Graduate School of Engineering, Osaka Metropolitan University),

〒558-8585 大阪市住吉区杉本 3-3-138

TEL/FAX: 06-6605-2981, E-mail: hhoribe@omu.ac.jp